



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY



第20回例会(2月26日)
令和3年3月5日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～
<https://www.morioka-rc.jp/>

会 長 米内 正
幹 事 大平 騰一
会 報 佐藤 仁志
クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ Rotary Opens Opportunities:ロータリーは機会の扉を開く…ホルガー・クナーケ
盛岡RC会長テーマ 奉仕の輪を拡げ困難を乗り越えよう 米内 正



新入会員卓話

JR東日本の30年と私の仕事

盛岡ターミナルビル株式会社 代表取締役社長

和田 俊文 君

盛岡ターミナルビルの和田でございます。昨年、7月に入会させていただき本日、卓話の機会を頂戴しまして本当に恐縮しております。本日は肩の力どころか全身の力を抜いて気楽にお聞きいただければと思います。

本日の卓話にあたり、実は参考にしましたのがJRの社内報「ひがし」の2017年30周年記念号として、発行責任者は石田亨となっております。石田支社長どうもありがとうございます。改めて熟読させていただきました。

さて、こうした卓話タイトルですと会社の変遷とあいまって仕事内容が変わっていった、となるのが普通ですが、今日お聞きいただくと私の職歴がJRの変遷からはかなり遠いところにあったのだとお分かりいただけると思います。入社はバブル期の平成2年で分割民営化4年目を迎えた年でした。新潟県の長岡駅できっぷ切りからスタート。長岡駅からは金沢や福井、大阪方面に特急がでており、今までの東京中心でのものの見方が覆され、雪国での生活を初体験した新入社員時代でした。

次の印象的な異動はアサヒビールへの出向でした。ある時、京都出身の上司から「和田君、たまには飲み行くか」と地下の社員食堂に連れていかれました。「異動や」と突然言われ、移動先を聞くと「ここや」とテーブルのビール瓶を指さされ、「アサヒビール、ええ会社や」と言われました。後に皆に話しますと「アサヒとJRって何か関係ありました？」と必ず聞かれましたが、その時の私も驚きというか、意外すぎて何も聞けなかったことを覚えています。全く社風の違うアサヒビ-

ルでの営業の仕事はなかなか慣れずに苦勞しました。そのなかで実感したのは、ビール会社は競争しているのだ、というあたりまえの事実です。ライバルより一件でも多く、酒屋さんと料飲店さんを回り、営業する姿勢。これはJRの待ちの社風とは全く異なり、苦勞もしましたが学ぶことの多い2年間であり、この時のことは20年経った今でもこうしてお話しできる話題(失敗)が満載でした。意外と多い質問は業務に係ることではなく、「ビールメーカーの飲み会って、やっぱりすごい？」というものでした。ハイ、凄かったです。

次に印象的だったのはエキナカの商業施設「エキユート」の運営会社に出向した時でした。「駅を変える」このミッションはコロナ禍でJRに再び突きつけられた課題ですが、当時、平均年齢30歳の会社はエネルギーと使命感に燃えていました。現場主義の社風で店舗をリーシングする業務では「行ってみた? 買ってみた? 食べてみた?」が合言葉。雑誌で人気だ、とか売上がいい、という理由でのプレゼンは必ず炎上しておりました。「なぜ自分はいいと思うか」これが説明できないとだめで、私は総務部長の仕事でしたのでこの洗礼を免れるかと思いきや、会社の飲み会の場所の選定や研修の内容、開催場所の説明に何度も失敗し、火だるまになっておりました。しかし、エキユートが「エキナカ」という概念をつくりあげたのは間違いのないと思います。

次の印象的な異動は長野のホテルです。ここでの経験は盛岡で再びホテルに携わらせていただくようになって、とても役立っています。因みにこ

の4年間で初めてロータリークラブの活動にも参加させていただきました。長野ではオリンピック後のホテル乱立状態がしばしば話題になり、取材テーマの多くは「駅前ホテル戦争!」のような感じでした。ただ、多くの方にご支援いただきお叱りもありましたが、何度も感謝とお褒めをいただけたのも事実です。印象に残るエピソードが数々ありますが、やはり当時、信州DCがあって、信州の果物をモチーフに理想のケーキを絵にしてくださいという企画を行いました。もちろん、県内の小学生の応募が多かったのですが、審査員が「いいね」をつけたのは何と沖縄の小学生の作品でした。さすがに招待できないのでパティシエが実際にケーキにし、その写真をアルバムにして沖縄に送りました。するとお礼状が届き「沖縄は海に囲まれているけれど長野はきっと山に囲まれているんだらうね。どんなところだろう行ってみたいね、と母と話しています」というものでした。これには企画した社員一同、大感激。春休みに交通費は負担していただきましたが宿泊と食事をプレゼントすることができました。

最後は前職の出版社での経験です。雑誌業界は今なお厳しい状況ですが、料理教室の開発やイベント開催、デジタルコンテンツの生成などにか

く皆、必死でした。今にして思うと、コロナで今言われている、デジタルとリアルの融合にやむにやまれず取り組んでいたと言えます。「食」の話題が多くに人にとって最大の関心事でもあり、これを捕まえにいろいろとアイデアを捻りだしていました。今の時代、ゼロからイチを生み出せる人材が貴重と言われています。他社の企画の真似をぐっとこらえ、特集企画を絞りだしていた編集者の姿勢は今でも頭が下がる思いです。重版出来! 何よりも嬉しい言葉でした。

このように私の職歴はJRの歩みとは違う側道を歩いていくものでした。周りに経験したひとがあまりいない仕事をさせていただき失敗も多くなりましたが、周りにフォローしてくれる方々が必ずいてくれました。どこでどのような仕事をして、常に一生懸命に業務と向き合う部下や先輩方がいて、その熱意にいつも引張ってもらってきました。

今、盛岡ではコロナ禍で難しい面もありますが、ひとの心を動かせる「ゼロイチ」仕事をするチャンスではないかと思っています。皆さまとの盛岡での出会いを大切にしながら

会社の発展に少しでも貢献する決意です。ご清聴どうもありがとうございました。

例会報告

第20回例会
令和3年2月26日(金)

場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

12時30分 開会点鐘

- ・司会 米内正会長
- ・ロータリーソング
(手に手つないで)

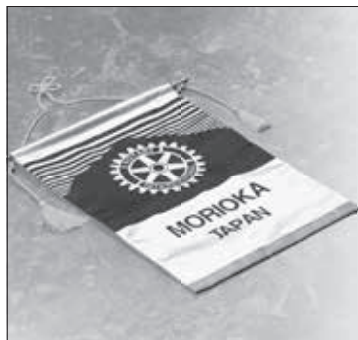
- ・会長報告 米内正会長
- ・入会祝 長野隆行・藤田治彦君
- ・幹事報告 大平騰一幹事
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

◆米内正君…本日は盛岡ターミナルビル代表取締役社長の和田俊文さんより「JR東日本の30年と私の仕事」と題する卓話を頂戴しました。ありが

とうございます。

◆飯塚肇君…テニス全豪オープン決勝戦の大坂なおみ。世界ランキング24位のジェニファー・ブレディに6-4、6-3とストレートで勝利。さすが決勝でハラハラさせる場面もあったが成長著しいメンタルの強さで、終わってみれば圧勝。全豪二年ぶり二度目の制覇。四大大会決勝では負けなしの四連勝にニコニコします。



プログラムのお知らせ

- ・3月5日(金) ゲスト卓話 阿部智幸様 (フードバンク岩手 事務局長)
佐藤幸枝様 (フードバンク岩手 事務局次長)
- 12日(金) 卓話
- 19日(金) ゲスト卓話 大嶋貴志様 (NHK盛岡放送局 アナウンサー)
- 26日(金) 環境保全ポスター表彰式
- ・4月2日(金) 会員卓話 西島光茂会員
- 9日(金) 新入会員卓話 三浦義孝会員

●本号編集担当 / 吉田 明弘